

トータルケアNEWS

No.50 2013. 3. 15

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

1. ボランティアサポーター
養成研修を開催・・・1～4
2. 県民フォーラムを開催・・・5～6

1. ボランティアサポーター養成研修を能代市と北秋田市で開催

秋田県社会福祉協議会では、昨年度から地域福祉トータルケア推進事業の重点項目の一つである「地域を支える人づくり」の一環として、ボランティアサポーター養成研修を行っています。

講師は、KT 福祉研究所の松藤和生氏が務め、2月18日（月）に能代市、2月19日（火）に北秋田市で地域のボランティアを対象に研修を行いました。

能代市では40名、北秋田市は15名参加し、地域福祉への理解やボランティアサポーターとしての役割を学びました。

能代市社会福祉協議会地域福祉課課長補佐 宮越富紀子

2月18日、しんしんと雪が降り積もるなか、社協には、「雪寄せしてください」との電話が相次いでかかってきました。

そんな中、除雪ボランティア「雪んこレンジャー」に除雪を依頼し、「平成24年度ボランティアサポーター養成研修」の会場に向かいました。

当日は、雪のためキャンセルした方もおりましたが、40名のボランティアが集まりました。

参加者からは、松藤先生の少しだけピリ辛調でユーモアたっぷりのお話がとても刺激になったようで、笑顔いっぱい「楽しい講座でした」、「今まで見えなかった活動内容が理解できました」、「社協ボランティアセンターのコミーシャルしますよ」といった開催した立場としてもボラセン担当職員としても嬉しい感想をいただきました。

同時に、参加していただいた方々の後ろ姿に凜とした何かを感じました。

東日本大震災が発生し、社会福祉協議会には災害ボランティアセンターが設置され、能代市社会福祉協議会ボランティアセンターの位置付けが地域の方々にあらためて認識され、浸透が図られました。

ボランティアセンター担当職員としては、日ごろ、ボランティア活動をしている皆さんには、大変助けていただいております、地域力の大切さ、ありがたさを日々感じております。

ただ、最近のボランティアグループの悩みは、ボランティアの高齢化が進んでいる、後継者がいないということで、これについては相談が社協にも寄せられていました。

研修の中で学んだことですが、ボランティアをする方々を増やすために大切なことは、①楽しくボランティア活動すること、②ボランティアのすばらしさ・楽しいことを伝える（コマーシャル）、③ボランティア活動以外の楽しみのおまけも必要、④身近なお友達をボランティア活動に巻き込む（高齢であっても元気であればOK）ということです。

また、ボランティアセンター職員としては、①事務局があるスペースの壁を使っている割には効果がない（情報誌等）、口コミが一番良い、②ボランティアを楽しく活動すればボランティアをする人も増える（だからボランティアセンターの職員も楽しく仕事することで、その気持ちが窓口のお客様に伝わる。そうするとボランティアセンターのお客様も増える…私の心の声）、③これからは、みんなが住みよい地域づくり、社会づくりを担うのがボランティアであり、希薄になってきたご近所のつながり・縁を取り戻すこともボランティアの力である、ということを確認できました。

研修後に、参加していただいた方に「また、活動のやる気が出てきました」と言われた言葉に背中を押された気がします。

そして、「社協のボランティアセンターに行けば、活動の道をつけてくれますよ」と言われるように、地域の方々から助けていただきながら、能代の地域力を高めていくとともに、これからもボランティア活動の必要性を伝えていきたいと思っております。



松藤氏による講義（能代市会場）

能代市読み聞かせボランティア 菅原春奈

朝から雪かきに追われ、疲労感が残るなかでの研修会。眠くなったらどうしよう
と心配していましたが、松藤先生のわかりやすいお話にうなずいたり笑ったりと聞
き入っていました。

今更ながら、ボランティアとは何かを知り、理解を深めることができました。か
つては、世のため人のための奉仕活動というイメージでしたが（今でもこのイメー
ジが強いかもしれませんが）、21世紀はみんなが住みよい地域づくり、社会づくり
の一翼を担うのがボランティアであり、失われた地域のつながり・縁を再び取り戻
そう！と話されていたのが印象的でした。

ボランティアサポーターとして、ボランティア活動の輪を広げる役割がありますが、
自分自身も活動の中で、どうしたら仲間が増えるかという課題を抱えています。
ある調査でボランティアに参加しない理由として、「何をしたらいいかわからない」、
「きっかけが得られない」、「情報がない」などが挙げられていました。また、実際
にボランティアをしている人に参加のきっかけを聞いたところ、「友人、知人、家族、
親せきに勧められて」が上位に入っていました。

このことから、身近な人に勧めることが有効だとわかりました。勧めるときには、
活動の必要性、目的、内容、そしてとっても楽しい！ということをアピールして周
りの人に伝えていきたいと思います。

仕事や子育てをしていると1日24時間では足りないと思うことがあります。そこ
でぜひ、地域の定年退職した方や時間に余裕のある方にボランティア活動に参加し
ていただけたらと思います。ボランティアの輪が広がりますように。

北秋田市社会福祉協議会地域福祉係主任 成田ゆか子

これまでは職員がボランティアコーディネーター養成研修に参加し、住民の皆さん
に身近なボランティア活動に参加していただく機会とするために養成講座等を行
ってきましたが、実際にボランティア活動に参加する方は少なく、ボランティア活
動を行う方の高齢化も顕著になってきています。

今回のボランティアサポーター養成研修は、地域でボランティア活動を支援する
人材をボランティアの中から育成することを目的としたもので、自らもボランティ
ア活動しながら地域の身近なところで相談に応じることや、地域への情報提供者と
なることの役割について再確認することができました。

ボランティア活動を進めることで社会参加支援につながることや、情報提供して
活動の輪を広げていくことがボランティア活動の道案内となることなど、参加者と
共通の認識を持って学ぶことができました。

ボランティアに対するイメージは、時代とともに変化しており、身近な人々によ
る助け合い・支え合いが地域の活力の創出につながるものであり、今後の高齢社会

を明るく活力あるものとするためには、地域で暮らす一人ひとりができることから支え合う活動に取り組むことの重要性について感じました。

演習では、様々な分野で活動されている方々が多様な視点でサポーターの役割や業務について真剣に話し合い、熱意を感じました。

これからも社協として地域福祉への住民参画を進め、地域福祉の大切さを広めていけるよう努力していきたいと思えます。

北秋田市いきいきサロンボランティア 佐々木 茂

講義は具体的な事例を出してわかりやすく、ユーモアを交えながら話をされ、大変参考になったとともに刺激を受けました。

研修では出席者が少なかったため、この貴重な講義はもっと多くの人に聞いてほしいと思いました。

演習では4グループに分かれ意見交換を行ったが、他のグループの発表はとても参考になるものだった。同時に、他のボランティアの方と情報交換もでき充実感のある演習でした。

今回の研修を通して少しでも市民参加を支援し、ボランティアに参加したいという意欲につながったり地域の問題解決に役立てるようにしたいとあらためて感じる事ができました。

とても良い研修に参加する機会を与えていただきありがとうございました。



グループ協議の様子（北秋田市会場）

2. 若者の社会参加を考える県民フォーラムを開催

秋田県社会福祉協議会地域福祉部 門脇琢也

秋田県社会福祉協議会では、経済情勢の悪化による若い世代の不就労や人間関係の希薄化による引きこもりなどの若者が増えている中で、若い世代の社会参加や就労をいかに促進していくかについて関係機関の連携により実現することを目的に、平成25年3月7日（木）、秋田市のエリアなかいちにぎわい交流館で「若者の社会参加を考える県民フォーラム」を開催しました。

当日は、県内外から103名が参加し、基調講演とシンポジウムを行いました。

午前中の基調講演では、静岡県立大学教授の津富宏氏から「市民による伴走型就労支援について～静岡方式から学ぶ～」と題してお話がありました。

津富氏からは、就労したくても就労できない若者に対し、援助をしながら（伴走しながら）雇用につなげるという方法をとっていること、その人の強みを生かしながら大学生の協力を得て合宿やセミナーなどの多様な企画や支援を通して就労につなげている実践についてお話がありました。

午後のシンポジウムでは、三種町にある長信田の森診療クリニック副院長の水野淳一郎氏にコーディネーターを務めていただき、秋田市たんぼぼ代表の大森サツ子さん、藤里町社会福祉協議会事務局長の菊池まゆみさん、サポートステーションあきた統括コーディネーターの大屋みはるさん、NPO法人秋田福祉共生会の藤原芳子さんの4名から実践発表をしていただきました。

意見交換の中で、参加者（当事者も参加）から「大人や県民が引きこもりを社会問題としてみるのではなく、秋田県の未来へつながる財産として考えてもらいたい」、「若者の就労支援のネットワークづくりができればよい」、「就労を考えただけでも焦ってしまう。今は生きているだけでも親孝行だと思っている」などの意見が寄せられました。

これに対し、実践発表者からは、「一つ一つ、一人ひとりの声に伴走型でお付き合いすること、それを特定の人だけでなく、町内の人や親せきの人にも寄り添ってもらおうことも考えなければならない」、「このような会は初めてなのでこれを機会に横のつながりを作っていきたい」というお話がありました。



アドバイザーを務めていただいた津富氏からは、「今日のこの会には教育関係者が参加していない。誰がここに来ていないのかを考える必要がある」、「ネットワークができているということは、絶えず相談しあえている状況だ。お互いが社会を変えていく同志でなければならない」などの助言がありました。

最後に、フォーラムに参加した方から寄せられたメッセージを紹介します。

私は、このフォーラムに大きい関心と期待を寄せて出席しました。

色々偉い先生たちの話を聴いて、大変勉強になりました。

私は、こういう大勢の前で自分の気持ちを率直に発表したことはなかったのですが、勇気を出して自分の体験を述べました。

会の進行からはちょっとそれたと思いますが、私の真剣な気持ちを聞いてくださった方たちから“感動した”、“心に響いた”などという言葉をかけられ、思い切って発言してよかったと思っています。

思いがけない出会いもありました。このフォーラムに参加して本当によかったと思います。

最後に開催に関わった皆さまのご労苦に深く感謝いたします。もうすぐ春ですね。私の心も春に向かって動き出しています。

まずは、お礼の一言まで。